

2・3歳児クラス 『粘土で遊ぶ』

大人が具体的な何かを作ることは封印して、子どもの心が突き動かされるまま粘土の可能性を探求できるように見守っていきます。大人が作る完成度が正解になり、自分で考えたり工夫したりすることをあきらめることを避けるためです。

【準備】

- ・えのぐ(赤・青・黄)
- ・絵の具を入れる容器
- ・筆
- ・軽量粘土:軽い・手触りが良い・伸びるもの
- ・黒色カラーボード
- ・小さな廃材(生活の中で出る廃材)
- ・養生テープ ほか

今回は、あぶら粘土ではなく軽量粘土を使用しました。

軽くて柔らかく、とても扱いやすい粘土です。自然乾燥で固まります。子どもたちは手にした瞬間、「やわらか〜い」「むにゅむにゅする〜」と丸めたり、伸ばしたり、捏ねたりして長い時間集中して感触を楽しんでいました。はじめての伸び方、柔らかな感触に出会い、子どもたちの心が動かされ自分なりに発見する姿が見られました。



その後、小さな廃材を出してみると“これはなんだ?!”“なにつくろうかな?”と廃材を見つめじっと考える姿がありました。その時に保育者はその姿を“見守る”ことに徹します。やがて、子どもたちは粘土にストローで跡をつけたり、キャップをさしてみたりなどさまざまな表現をしていきます。



最後は粘土をえのぐで塗りはじめました。えのぐを塗るとさらに柔らかくなることや、粘土を捏ねているうちに違う色に変化していくさまに気が付く子どもたち。造形遊びは正解がなく、子どもたちひとりひとりのやりたいことが見つけられます。画一的な制作では得られない楽しさがそこにはあります。今回はさまざまな素材を使えるようにしたことで多様な表現につながりました。

今後も子どもたちの『考える時間』『心が動いている瞬間』を大切に保育をしていきたいと思ひます。